

「トリアージ」理解深め、防災力強化へ 2/25

地域住民が災害時の対応について学ぶ「災害対応研修会」が開催されました

「災害対応研修会」(町社会福祉協議会主催)が開催され、町災害ボランティアコーディネーターの会会員や町民など31人が参加しました。研修会では、県災害医療コーディネーターの松岡良太氏が講師を務め、災害発生直後の医療不足を補うために行われる「トリアージ」(応急処置の優先順位づけ)について説明しました。その上で「一般の住民がトリアージ自体の判断をすることはないが、順位づけの後の軽傷者への処置や円滑な救護所運営には、皆さんの手助けが不可欠」と参加者に呼びかけました。



「地震発生時とその後にすべきこと」について意見交換

3/7 工事の無事完成を祈願して

「あかいしの郷」の増床工事が始まる

特別養護老人ホーム「あかいしの郷」の増床工事開始に伴う地鎮祭が、同施設横の建設予定地にて挙行されました。同施設は町内で唯一「施設型介護サービス」を提供していますが、施設への入所待機者がいることから、このたび30床分の増床工事を行うこととなりました。

式典には、施設を運営する社会福祉法人恒仁会の伊藤恒道理事長や鈴木町長など関係者約30人が出席しました。



①厳かに行われた神事 ②鍬入れの儀(伊藤理事長と鈴木町長)

大井川流域をテーマに力作そろろう 2/26

白旗史朗氏(写真家)が審査委員長を務め「大井川流域フォトコンテスト」入賞作品が決定

大井川流域振興連絡会(静岡市、島田市、吉田町、川根本町、大井川鐵道で組織)は「第21回白旗史朗大井川流域フォトコンテスト」の審査結果を発表しました。

このフォトコンテストは「大井川流域の四季」をテーマに毎年開催されているもので、今回は、流域住民を中心に242点の応募がありました。

雄大な景観や祭のひとコマなどを切り取った秀逸な作品がそろった中で、最高賞の「推薦」には、井口日出男さん(焼津市)の作品「私も仲間入り」が選ばれました。



【白旗審査委員長講評】

「愛らしい女の子が、祭の風俗衣装を着て立っている。そのさまがいかに愛らしく、見る人の微笑みを誘う。まったく嫌味が感じられないオーソドックスな手法が、モデルと相まって、好感にあふれる作品となった」。

◀最高賞「推薦」に選ばれた「私も仲間入り」(井口日出男さん・焼津市)

新しいトンネル、楽しみだね！

2/20

町内の小学生が青部バイパス新トンネルの掘削現場を見学

町内小学校の児童 129 人が、青部バイパスで現在掘削中のトンネル内部を見学しました。

この見学会は、工事現場の最前線を体感してもらうことで、町内の子どもたちにバイパス全線開通への興味関心を持ってもらおうと、島田土木事務所が主催しました。児童らは、通常では見ることができない掘削現場や大型の特殊機械を目にして、驚きの声を上げていました。また、作業員への質問タイムでは「1日にどれだけ掘れますか」「掘る機械は何種類ありますか」などと、積極的に質問していました。



トンネル入口から掘削途中の地点まで歩き、長さを体感した

3/4

一面に広がる花畑を心待ちにして

長島ダムへの植栽イベント、今年はシバザクラに代わり「ヤブラン」を植える



▲「この先2度3度とこの地を訪れ、植栽後の成長についても気に掛けていただければ」とあいさつした鈴木町長。



▲斜面に沿って一列に並び、1時間ほどで手際よく植栽した。

大井川の水の恩恵を受ける7市2町(島田市、焼津市、掛川市、藤枝市、御前崎市、菊川市、牧之原市、吉田町、川根本町)で組織される「大井川長島ダム流域連携協議会」は、長島ダムの法面にヤブランやハナモモを植栽するイベントを開催し、流域住民約150人が参加しました。

この植栽イベントは、流域住民が水源地域に訪れ保全活動を実施することで、日常生活に密接にかかわる「水」の大切さを再認識するきっかけづくりを図ろうと、毎年開催されています。

植栽作業では、参加者が協力し合い、ダム右岸の法面に約5,000株のヤブランの苗と11本のハナモモの苗木を植えました。

また、植栽作業後には、長島ダム管理所職員の案内のもと、ダム堤体内部見学会も行われました。参加者は、普段は見る機会のないダムの内部を熱心に見学して理解を深めました。



▲ヤブランの花。順調に生育すれば、8月上旬ごろに、紫色で小さな穂状の花が咲く予定。